

平成30年度の活動記録(5月)

第5回(6月4日) ◎相良保育園児との交流会

今年も園児からパワーをいただきました



参加者数
対象者：25名
協力員：13名
相良保育園
職員：3名
園児：23名

●相良保育園ひかりぐみの皆さん、ありがとうございました
今日は恒例のひかり組の子供たちとの交流会でした。今年は園児の数も多くて本当に賑やかでパワフルな交流会になりました。
次は生き生きクラブがひかり組へお出かけして、園児たちの父さん・母さんたちも知らないような昔のお話をして良いかもしれませんね。

ひかりぐみ



みなさんごあいさつしましょう



ハイ、お手手つなぎましたかー?



お肩をトントン

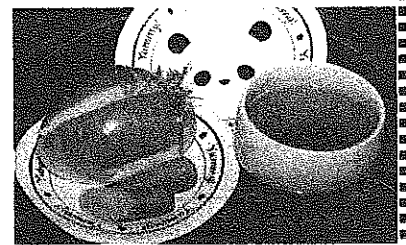


みんなお行儀よく席に着きました
では、「いただきます」



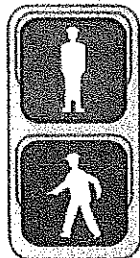
とーきょーと・にほんばしー・ごによごによごによ

◎本日のおやつ



ロールパンの
ツナサンド

第6回(6月18日) ◎交通安全教室を開催しました



- 信号の「青」は安全ではありません! 自分の目で安全を確かめてから横断しましょう。
- 高齢者の道路横断中の死亡事故のうち約85%が左からの車にはねられているそうです。
- 車は想像以上に速いもの。100メートル先から注意が必要です。
- 今日は大変ためになる教室でした。指導員さんありがとうございました。

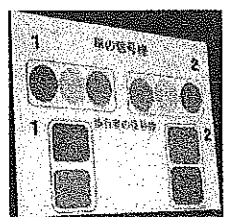
参加者数
対象者：24名
協力員：11名
交通指導員：2名
社協職員：1名



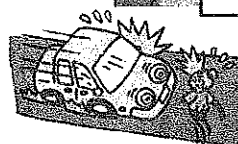
交通指導員の松浦さん(左)と
藤田さん(右)
身長差23センチの名コンビ?



皆さん真剣に受講しましたね

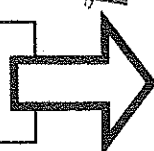


どれがホントの信号機かな?



いつも心に「安全」を

時速40kmで走る車は1秒に11m進みます。
高齢者が歩く速さは1秒に1mです。
ご用心 ご用心



◎本日のおやつ



鶏のつくね2種
(味噌・ケチャップ)

● 夏の風物詩

風に揺れて「ちりん、ちりん」と涼やかな音色を奏でる「風鈴」は、夏の風物詩。風鈴の音色を聞くと、ふと涼を感じるものです。風鈴市も各地で開催されます。暑い時期ですが、お気に入りの風鈴を軒先や室内の風の通り道につるして、爽やかに過ごすのも良いものです。

● 風鈴のルーツ

風鈴のルーツは、仏教伝来とともにもたらされた「風鐸（ふうたく）」です。風鐸は、今の風鈴とは全く違う重い音色で、邪気を遠ざける魔除けの鐘としてつるされるものです。今でもお寺の軒先などに見ることができます。

風鈴がいつから日本の夏の風物詩になったのかははっきりしませんが、江戸時代の浮世絵には、浴衣を着て涼んでいる美人とともに今と同じ形の風鈴が描かれています。

青銅製が中心だった風鈴ですが、江戸時代に入ると、ガラス作りの技術がもたらされ、ガラス製の江戸風鈴が作られるようになりました。江戸の町にはたくさんの物売りがいて、売り声も高くにぎやかに売り歩いていたのですが、「風鈴売り」だけは、風鈴の音色がよく聞こえるように声を上げずに売り歩いていたといわれます。

● 風鈴まつり

6月1日から8月31日までの3か月間 遠州三山と呼ばれる「法多山・可睡斎・油山寺」では日本の伝統的な寺院文化を継承しながら、新たな夏の風物詩として「遠州三山 風鈴まつり」を開催しています。風鈴は三山の信仰の源でもある「厄除・火防信仰・目の霊山」などの思想をもとに「願いや祈り」を鈴の音に託します。期間中は願かけ風鈴やお絵描き風鈴体験などの企画もあるそうです。機会があれば是非一度行ってみてください。

風鈴に涼しき風の姿かな 正岡子規

生き生きクラブ一年生

福岡区 保健委員 増田光男



今年度、福岡区から生き生きクラブ協力員の仲間入りをさせて頂く事と成りました増田です。

会員の皆さんの明るく弾む会話そして笑顔に触れ、月2回サロンに足を運ぶのを楽しみにされているのだと感じています。これも民生委員、協力員、スタッフの方々の献身的な活動の取組みから何うことが出来ました。

大半の参加者が戦中、戦後に生まれ厳しい子供時代を過ごし、今日まで色々なヒストリー（歴史・履歴）があった事と思われれます。先日は園児との交流が行われ戸惑いながらも優しく接している姿から、自分達が過ごした幼児時期との違いを感じ、良い時代になったと思われたのではないのでしょうか。

私ごとですが50年の会社生活が終わり、自由な時間が持てるようになり、今まで出来なかった事への挑戦、残されたシニア人生を有効に悔いの無いようにと新たな生活リズムが生まれています。元気で趣味等を満喫できるよう、健康管理には気を使っています。

昨今、マスコミを通じ、大規模地震が予想されるとの情報が多く聞かれるように成りました。こうしたなか、千葉県・群馬県・そして大阪と東海地域の周辺で地震が発生しています。

東北地震を教訓に、お年寄りも自分の身は自分で守る心構えが必要との事、その為にも、内向きにならず生き生きサロンに来て、交友関係を高め、人生これからまだまだ現役の精神で元気に頑張ってもらいたいと思います。また平穏な日々が長く続く事を願っています。

私も先輩の方々のお力添いを頂き、精一杯役割を果たし、参加会員の方々が楽しい一日を過ごせるよう活動に関わって行きたいと思っています。

どうぞよろしくお願いします。

よろしく
お願いします



なつかし配・さがら 子供たちのいる風景

紙芝居

最後に紙芝居を見たのは何年前かも忘れてしまいました。

街頭紙芝居は、駄菓子を売るための人集めの道具だったため、子供の数が少なくなれば紙芝居も自然に淘汰されていったのでしょう。

絵を見せながら演じ手が語って進める芝居的表现法は日本独自のものだそうです。

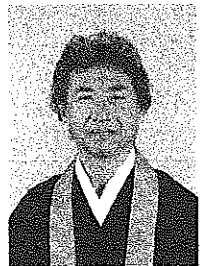


画 澤田 翰 (たかし) 氏

皆様のご意見や思い出話をお待ちしております

相良でんでら史話

大澤寺住職 今井一光



著者近影

波津大澤寺の十五代目住職今井一光です。

紙面を戴きましたのでのりくりりと記させていただくことにいたしました。

「喉元過ぎれば熱さをわすれる」は私たちが時間の経過によって味わった苦難やいただいた御恩を忘れてしまうことを言っています。

これは人は「今」を生かされているのですからある意味仕方ないことです。しかしそれらを忘れて気にも留めなくなることを仏教では「畜生」と喩えられることがあります。

実際のイヌネコのペットたちはそういった思をまずは忘れませんのでやはりそのことばは「私」への忠告です。

「忘れること」はある意味人が備えた良好なシステムですが「忘れないこと」「伝えなくてはならないこと」はたくさんあります。

にもかかわらず漫然と「大丈夫」を決め込んで失敗を繰り返している人間世界があるのですが歴史の中には私たちの将来へのヒントとなりうる興味深い話が見られます。相良には昔の人が記した文書が遺っていますがまずは拙寺に伝わる「地震記」から紹介させていただきます。(以下 次号へ続く)

今月号から新しい歴史読み物のシリーズがはじまりました。著者は大澤寺の住職であります今井一光さんです。

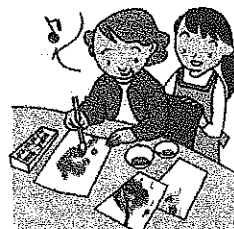
大澤寺は今でこそ波津の地にありますが、かつて(江戸時代中期)までは相良の中心地であった現在の相良パーキング～コミュニティ防災センター付近に位置したそうで、新町～市場あたりにも檀家が多数あり、相良、福岡地区に大変ご縁の深いお寺であります。

「でんでら」

蓮台(でんでら)とは蓮の花をかたどった台の事であり「レンダイ」と正式には読みます。そして、それがなまった言葉でありましょう。仏さまの座席として使われます・・・ということは仏様の場所、それが転じて、寺あるいは墓地という意味にも通じるそうです。

これからの いきいき予定

- 7月23日：大きな声で歌おう
- 8月 6日：子供会との交流会
- 8月20日：輪投げを楽しもう



相・福 いきいきだより

笑顔がいいねっ!!

2018年7月2日号

(通算第52号)

発行

相良・福岡 生き生きクラブ

編集

いきいきボランティア協力員